

# REPORT

一般財団法人 自治体国際化協会(CLAIR) ロンドン事務所 所長補佐

濱本 京平 (徳島県派遣)

COP26の理念を未来へ！

## 英国製品に見る温室効果ガス削減への取り組み

10月31日から11月12日までの間、英国のグラスゴー市において、第26回気候変動枠組条約締約国会議(COP26)が開催されました。この会議は、気候変動に関する国際的な会議で、米国・中国、欧州各国をはじめ、アフリカ・ラテンアメリカ・太平洋諸国等、約120カ国が参加しました。その様子については、日本においてもニュース等で盛んに報じられたことかと思えます。この会議では、二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスの削減や排出権取引などについて各国間で交渉が続けられ、石炭火力の段階的削減や、さらに厳しい温室効果ガスの削減目標を定めることなどが決まりました。

今回のCOP26の開催地となった英国では温室効果ガスの排出について、英国では2019年に先進7カ国(G7)の中で初めて、2050年までにネットゼロ(温室効果ガスの排出量と吸収量を同じにして、実質的に排出量をゼロにすること)を達成するという目標を掲げました。また、2035年までに温室効果ガスの排出量を1990年比で78%削減するという、さらに野心的な目標も定められ、達成に向けた計画も策定されました。「緑の産業革命」

をキーワードに、英国は民間資金も活用して、クリーンエネルギーやグリーンインダストリーへの投資に注力していくようです。そんな英国には、「ネットゼロ」や「カーボンニュートラル(ネットゼロとほぼ同義)」をうたう商品や、「カーボンフットプリント(商品の製造から流通・消費までに排出するCO2の量)」を表示している商品が多く見られます。

最新の調査(※)によれば、英国の消費者の3人に1人は、「環境面で持続可能な活動を行っている、またはそのような価値観を持っているブランドを選んでいる」と答えており、環境に優しい商品であることが、消費者にとっても魅力的に見えていることがうかがえます。今回は、英国で手に入る身近な商品から、英国企業の温室効果ガス削減の取り組みについてご紹介します。



▲COP26の開催されたグラスゴー市の街並み。  
(Tolbooth Steeple, Glasgow. by Stevie Spiers  
Wikimedia Commonsより)

(※) [Sustainability & Consumer Behaviour2021 | Deloitte UK](#)

## 濱本 京平 (徳島県派遣)

COP26の理念を未来へ！

### 英国製品に見る温室効果ガス削減への取り組み

#### カーボンフットプリント表示～ 食品メーカー「Quorn」

Quorn (クォーン) はイングランドの北部に本社を置く企業で、代替肉 (動物の肉を使用せずに肉の食感などを再現した商品) を製造する企業として、英国をはじめ米国やEU諸国など16カ国に商品を販売しています。同社では販売している商品の60%にカーボンフットプリントが表示されており、今後すべての商品へのカーボンフットプリント表示を目指すとのことです。畜産業は、飼料用作物の栽培地のための森林伐採や、家畜からのメタンガス (メタンガスはCO2より強力な温室効果を持っています) の排出などの面で、気候変動に無視できない影響を与えていますが、Quornブランドの代替肉は菌類を原料に使用しており、その生産にあたって排出する温室効果ガスの量は、同じ重量の牛肉の45分の1、比較的排出量が少ないといわれる鶏肉と比較しても7分の1と非常に低くなっています。同社はこの排出量の少なさを消費者に積極的にアピールしており、強力なセールスポイントになっています。



▲Quornのベジタリアンソーセージのパッケージ。右上にカーボンフットプリントが表示されている。

表明しました。同社は工場の電源として風力発電などのクリーンエネルギーを活用しており、また醸造中に発生するCO2を回収して大気中に放出させないための設備を設置するなど、温室効果ガス削減に取り組んでいます。また、スコットランドのハイランド地方に9,300エーカー (上板町の面積に匹敵) の広さの土地を購入し、英国で最大規模の森林再生プロジェクトを進めています。これらの取り組みを通じ、同社は「自社が排出する炭素の二倍の炭素を大気中から取り除いている」 (同社ホームページより) とのことです。

▼Brewdogの取り組みを伝えるホームページ記事。同社ウェブサイトより

**BREWDOG** Beer Community Locations Shop Login

**CARBON NEGATIVE BEER BY BREWDOG. ELECTRIFIED BY NISSAN**

PUBLISHED - 10.08.2021 [COMMENTS \(0\)](#)

In 2020, BrewDog became a carbon negative brewery.

**BREWDOG** CRAFT BEER FOR THE PEOPLE

**PLANET POSITIVE BEER**

This was the result of decades of inaction, which have led to a climate crisis of devastating proportions. We needed to do something, and we needed to act quickly.

#### カーボンネガティブへの取り組み～ ビールメーカー「Brewdog」

Brewdogはスコットランドに本社を置く、世界的に有名なクラフトビールメーカーです。同社は2020年8月に「カーボンネガティブ (温室効果ガスの吸収量が排出量を上回ること)」であることを

濱本 京平 (徳島県派遣)

COP26の理念を未来へ!

## 英国製品に見る温室効果ガス削減への取り組み

カーボンオフセット制度の活用～  
靴小売「Pavers」

Paversはイングランドに本社を置く靴小売チェーンで、英国の靴小売業者で初めて「カーボンニュートラル国際認証」を取得しました。同社は現在、ウルグアイにおける森林再生プロジェクトを支援しており、これによるカーボンオフセット（自社の温室効果ガス排出量に見合う、植林・森林保護・クリーンエネルギーなどの削減活動を行うこと）を通じてカーボンニュートラルを達成しています。同社は、国連とパートナー関係にある環境系の非営利団体により、環境的にも社会的にも効果的であることが検証されたカーボンオフセットプロジェクトのみをサポートしています。

エネルギー企業による取り組み～  
電力会社「Green Energy UK」

英国では日本と同様電力が自由化されているため、各家庭でどの電力会社と契約するか選ぶことができます。そのため、自然エネルギーや再生可能エネルギーによる電力生産を行っていることをアピールすることで差別化を図る電力会社が多く見られます。その中でもユニークなのがGreen Energy UKです。同社では、発電量に占めるバイオガス（農業廃棄物や食品の食べ残しなどを微生物が分解して生産される可燃性ガス）による火力発電、太陽光・風力・水力発電などのグリーンエネルギーの比率が100%となっています。また、生態系や持続可能性に配慮した

エネルギーの国際認証制度である「EKOenergy」認証ラベルを取得した電力のみを使用する特別料金プランも存在し、さらに付加価値の高いエネルギーを消費者が選択することも可能です。

本記事では温室効果ガスの削減に絞ってご紹介しましたが、英国ではこのほかにも、プラスチックの利用削減など様々な環境問題に取り組んでいる企業がその取り組みを積極的に消費者に向けて発信しており、また商品のパッケージなどにも積極的に表示して差別化を図っていることが見て取れます。取り組みの効果に関する透明性の確保等の課題はありますが、環境に優しい商品やサービスを消費者が選好することが、企業が環境問題に取り組むことに対するインセンティブ（動機づけ・報酬）として機能すれば、気候変動をはじめとする環境問題に対応するうえで役に立つと筆者は考えます。今後、日英両国において、このような商品を消費者が選び取れる機会が増えていくことを願いたいと思います。

